

2023年度 第31回幹事主催勉強会報告書

主催 一般社団法人多治見市観光協会（たじみDMO）
 テーマ 多治見モデルの公民連携まちづくり
 日時 2024年3月5日(火) 10:30~17:30
 場所 岐阜県多治見市 ヒラクビル・中心市街地一帯

今年度、幹事主催の勉強会の取組み第一弾として、会員アンケートで要望が多かった「観光・公民連携」をテーマに多治見市にて開催しました。
 講師はたじみDMO 最高執行責任者(COO)の小口英二氏。小樽駅前ビル様、伊勢まちづくり様、TCCM様、豊田まちづくりが参加され、座学、視察、意見交換を通じて、まる1日たじみの取組をしっかりと学びました。

座学「多治見モデルの公民連携まちづくり」



従前の3社の経営統合の経緯と、株主への分配から再度まちづくりに活用できる基金として担保する公民連携リノベーション基金の組成とスキームは興味深いお話でした。

統合に際しての工夫に、観光協会としては珍しい「会費の廃止」、「事業による財源確保に向けた営利型組織」等を目指し機動力を持った意思決定組織への転換を実現。



多治見の魅力「まち(中活)」と「産業(美濃焼一大産地)」として定義。地域の魅力化(不動産MD)、知見経験や人脈づくり(人材育成)、財源確保(駐車場事業)、ステークホルダーの事業環境の貢献(観光協会と情報提供)を会社事業の考え方として持続可能なまちづくりに取り組んでおられます。
 また多治見は暑いまちとして有名ですが、熊谷、浜松、四万十市等の市町村と伊藤園が共催し、暑さ対策日本一を目指すなどユニークな取組も。

たじみビジネスプランコンテスト

まちのプレイヤー発掘と空き店舗活用を両輪に、創業者ネットワークづくり等にもつながる公民連携事業。

事業支援としての賞金制度など、従来の空き店舗対策・家賃補助の概念を超えた実効性のある施策。

今年で6回目を迎えた通称タジコン。まちなかグランプリ受賞者は実際にまちに出店し経営されています。お洒落な若い担い手がまちなかに出店することで、これまで以上に感度の高い観光客も増え、良い循環が生まれています。



さかさま不動産

従来の物件情報は不動産屋で入手しますが、さかさま不動産は、先に借りる人の情報を得られる逆さのシステム。物件オーナーも誰でも貸したいと思っている訳ではなく、空き物件の住所や家賃情報も晒すことなく借り手を探せる逆さの構造。いよいよ、たじみでもスタートです。

昼食「老鰻亭 魚関」



お屋は創業明治30年の老舗料亭「魚関」のうな丼を堪能。午前の座学に続き、観光事業の情報交換が活発に行われました。ちなみに美濃焼産地ゆえに器にこだわり、うな重はありません。

ヒラクビル



ヒラクビル事業「ながせ商店街事業」

本勉強会会場のヒラクビル。中活計画の一主要事業の位置づけとして来街者増、新規出店増、意欲ある事業者育成の場であり、また地元観光の人気スポットとして、こだわりの選書による本屋、本と人をつなぐカフェを併設。

タイル、木材等の地元素材や従前の什器活用など場所のDNAを残し地元企業等の協力を得てリノベーションを実現。多治見らしさを表現する集客・情報発信拠点として営業されています。



ひらく本屋(過ごす場)



喫茶わに(過ごす場)



オフィスルーム(働く場)

まちなか視察



古民家の活用「かまや多治見」

午後はオリベストリートを中心に視察。経営統合のタイミングで立ち上げたりノベーション基金を活用し観光客や通行客の誘引、出店の流れを引き込む原資として観光事業を強化。当日は平日の小雨ながらも若い女性グループ客を多く見かけました。



THE GROUND MINO 内の陶芸体験



老舗の玉木酒店、店の2階がギャラリー



関係者ですら余り目を通すことのない中活計画。多治見のそれは、子どもでも理解できるよう絵本スタイル。幼少期からまちに関心を持ってもらい、みんなで楽しむ素地となるよう取り組んでいます。

ここで紹介した事業の他に、多くの取組について詳細にご説明いただきました。一方的な講演ではなく、意見情報交換や問題課題についての討議も交え、貴重な学びを得ることができました。また、若い担い手が流入する“ものづくりのまち”だからこそ、デザインや美しさは重要なポイント。視察で感じたモノや設えの完成度はもちろん、SNSやリーフレットまでお洒落さや美しさの表現にも細やかな配慮が伺えます。最後は地元で人気の焼き鳥屋さん“だいき”で懇親会。DMOでご活躍の女性スタッフ田平さんも参加され、美味しい多治見の夜も満喫できました。たじみDMOの皆様、お忙しい中ご準備ご対応いただきありがとうございました。



多治見市のキャラクターうながっぱ。やなせたかし先生の作だそうです。